

会議名	2007年アジア・パシフィック・レクチャー・ツアー オルテック社定期セミナー「新しいエネルギー危機 食料、飼料、それとも燃料」
開催日時	平成19年11月7日(水) 午前9時～午後4時
開催場所	ホテルパシフィック東京(東京都港区高輪3-13-3)
主催者	オルテック・インク東京支社
参加人数(概数)	約80名(企業、特に飼料メーカーからの参加者が多い)
1. 会議の概要 (資料添付)	<p>最初に、本セミナーのタイトルである「新しいエネルギー危機 食料、飼料、それとも燃料」について、トウモロコシから燃料用アルコールを生産する技術開発の歴史と、現在オルテック社が開発しているアルコール工場の紹介のビデオが紹介された。その主題は、今後のトウモロコシを利用した燃料用アルコール生産が急速に伸び、家畜はその発酵残渣である DDGS を利用することになるという論調であった。</p> <p>しかし、ほとんどの講演は「新しいエネルギー危機 食料、飼料、それとも燃料」に直接かかわる講演は2題のみで、他はオルテック社の商品の科学的根拠の紹介が主で、これが企業主催のセミナーの限界と考えられた。しかし、聴衆の多さから考えれば、このようなPR活動が畜産の、特に飼料問題に大きな影響を与えるのではないかと危惧される。おもな講演内容は下記のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. セレン、セレン酵母と免疫機能 オルテック社栄養ディレクター ケイト・A ジェイクス博士：セレンおよびセレン酵母のヒトにおける免疫機能についての講演であり、単胃動物には応用可能な知見と思われたが、反芻家畜についても詳しい説明がほしかった。 2. 最適な栄養供給-受胎から出荷まで- オルテック・カナダ ポール・グロエンウェゲン博士：妊娠豚および育成豚の栄養管理についての講演であり、特にタンパク質とアミノ酸の必要性について説明があった。オルテック社のタンパク質サプリメントの技術的根拠の紹介であった。 3. 今日のエタノール産業と今後の展望-世界畜産業への影響- チーフエタノールフェエル社 ドウエイン・クリステンセン博士：トウモロコシからの燃料用アルコール製造技術の歴史、現在最新と思われるシステムの紹介および今後はトウモロコシからのアルコール生産がさらに伸びるという考えを披露した。 4. 明日の利益につながる繊維利用率の改善-その利点と欠点- ブラジル ペロタス連邦大学 フェルナンド・ルッツ博士：繊維利用とは、一般的な飼料中の繊維成分ではなく、トウモロコシのアルコール発酵残渣(DDGS)中の繊維成分の利用率をどのように高めるかについて、話題提供があった。 5. 最先端をゆく-未来への挑戦- オルテック社社長 T・ピアス・ライオン博士：オルテック社の設立の経緯、これまでの成長の要因、そして未来に向けてはトウモロコシからのアルコール生産がさらに伸びると予想し、そのための技術開発戦略について語った。

	<p>6. 食品中のセレンの化学形態と有効性 関西大学工学部 吉田宗弘教授 セレンは酵素の構成成分としてビタミンEと共の抗酸化作用により乳牛の生体膜の保護に重要な役割を果たしている。わが国の牧草のセレン含量は牛の要求量よりも低いため、何らかの補助飼料によって補給する必要がある。しかし、講演では、主にヒトの食料中のセレンの化学形態と有効性の関するものであり、豚等の単胃動物には応用可能と考えられるが、反芻家畜には適応しにくい内容であった。</p> <p>7. 酵母エキスの利用 アサヒフードアンドヘルスケア(株) 鈴木睦明氏 ビール製造過程で残差として生産されるビール酵母をもとに、そのエキスおよび細胞膜から、機能性食品を生産する研究の概要とこれまでの成果について報告があった。この演題もヒトの食品を対象としたもので、セミナーのタイトルには深く関係しているとは言えなかった。</p>
<p>2 .今後の研究開発分野として重要と思われる課題・話題</p>	<p>これだけの国際的な飼料メーカーが、トウモロコシによるエタノール生産をやむを得ないと考えながら是認し、その対策に乗り出していることは、世界的な趨勢として、この方向は止められないと思われる。一方わが国ではバイオマスジャパン計画で直性食料・飼料とならないバイオマスからのエタノール生産技術の開発を研究している。アメリカ、ブラジル等で進められている食料・資料資材(具体的にはトウモロコシ、サトウキビ)を使ったエタノール生産に対応して、わが国日バイオマス計画を説教区的に推進することが、畜産にとって重要である。</p>
<p>3 .その他の発表課題で関心のあったもの</p>	<p>セレンに関しては、その抗酸化性、繁殖に及ぼす効果などからより研究を進める必要がある。</p>
<p>4 .今後研究開発課題採択に当たって参考とすべき事項等</p>	<p>2 . 今後の研究開発分野として重要と思われる課題・話題に記載</p>
<p>5 . 会議の所感</p>	<p>多くの飼料メーカーの関係者が出席しており、エタノールよりはその副産物である DDGS の飼料化について興味があるようであった。</p>
<p>報告者</p>	<p>伊藤 稔</p>